

当院の院長が令和7年7月1日（火）の下野新聞に掲載されました。

掲載箇所は、第4面【総合・社会】欄になります。

JCHOうつのみや病院長になった

ほりえ 久永さん  
**堀江 久永**

5年ぶりの院長交代で、4月に就任した。2次救急を担う中核病院として地域医療に貢献する意識を職員と共有しているといい、「社会課題である高齢者や小児の救急医療にしっかり取り組む」と強調した。

介護や認知症につながる高齢者の骨折が注目される中、整形外科の股関節の手術件数は本県トップクラス。県内で初めて回復期リハビリテーション病棟を



開設した病院として、診療からリハビリ、社会復帰まで「一貫した医療を提供できるのが強み」と胸を張る。出身は栃木市岩舟町。新潟大医学部を卒業後、本県の医療に貢献しようと自治医大消化器一般外科に入局した。以来34年間にわたって同医大や関連医療機関で臨床や教育に携わる。

専門を大腸がんに決めた20年ほど前。同医大の主任教授の助けで困難な摘出手術を完遂し、治療に深く感謝した患者から多額の遺産の寄付を受けた。

故人の名を冠した基金は今も若手医師の腹腔鏡手術のトレーニングに活用されている。「ベストを尽くして患者に向き合うことが、満足してもらええる治療につながる」と実感した。

現在も週1回は手術に入る。お酒は好きだが「手術時の手のむくみが気になるからほぼ飲まない」と笑った。球場でのプロ野球観戦が息抜き。下野市内で、妻、次女と暮らす。59歳。



（宇留野有貴）